



Hop Step Jump

4

人権について 考える①

第3回初任研のテーマは人権。講師の先生は、神戸親和女子大学教授、新保真紀子先生でした。

(出典)大人教 HP

つい最近、子どもを見放すような対応をとってしまった。今日の自尊感情の講話はとても胸が痛んでしまっ
て反省した。授業中に廊下に出て、先生の注意を引こうとしていた子たちを、けじめがつけられない子！！
とレッテルをはって放ってしまったけれど、本当はもっと違うアプローチの方法があったんだと学びました。
とてもタイムリーな講話でした。お話が聴けてよかったです。ありがとうございました。

ここ一週間メリハリのないクラスに毎日叱っている自分に気付き、「こんなはずでは…」と落ち込んだ所でし
た。大学時代「自尊感情を育てる先生になるんだ！」と意気込んでいた自分とは裏腹に、「やっぱり新任の先
生だからクラスもまとまりがないんだ。」と周りの人に思われるのがこわく、気持ちに余裕がなかったのだと
思います。ようやくそのことに気付くことができ、来週はたくさんのありがとうとあなたにはこんないい所
があるよねという言葉掛けをすることができています。辛抱強く、こちらの都合を押し付けずに大きな心で
見守っていただきたいと思います。

5月も終盤を迎え、みなさんの感想の端々に疲れや余裕のなさが見え隠れしています。そのような中、今回の
研修はとてもタイムリーな内容だったようです。

「人権について」という題で、正直硬い話になると思っていましたが、普段の子どもの生活でとても感情移
入しやすく良かったです。最後のホタルの話のようなことが、私のクラスの子もあり、聞きながら切くなり
涙が出そうになりました。先生のような接し方をし、子ども同士もつなげられる先生になりたいです。早く
帰って色々考えたいです。

「あんたのこと、ほっとかへんで」新保先生に教えて頂いた内容は教育心理学から教育社会学等々多岐に渡る
ものでした。でも、それは先輩たちが大切にしてきた大阪の人権教育の集大成。日々、子どもたちと真摯に向
き合うなかで、気づき、体系づけ、創り出し、大切に引き継いできたものです。改めて、初心を思い出し、教
職員という仕事を再発見できたのではないのでしょうか。

教師という職業の責任の重さを再認識したような気がします。それは授業の中での声かけや表情、態度など
生活の中での話の聴き方が大切になると思いました。その中でも特に印象に残ったのが『立ち位置』です。
子どもは1人ひとり個性もあり、違うので、立ち位置も変えていかなければいけないと感じました。責任の
重さ、難しさを感じるとともに、やっぱりおもしろい仕事だなと思いました。正解がない分、自分で考えて、
いろいろなことに挑戦していきたいです。

ペアレントクラシーと学力格差。親の価値観だけで自分の将来が決まるのなら、何のために学校で学ぶので
しょうか。親自身も社会のひずみの中で苦しんできたのかもしれない。私たちが携わっているのは公教育、
しかも義務教育です。すべての子どもの学びを保障する。教室は、子どもたちが、自分や人間関係、社会に対
して希望を持ち続けられる場所でなくてはなりません。

「インクルージョン」という単語が印象的だった。日々の授業づくりでは、どの子をメインターゲット（基
準）にして授業づくりをするか迷うばかりだったが、いわゆる「気になる子」を中心に据えて、上位層（学
力的）も伸ばせる授業が理想だと思った。ただ、現実には…。これから試行錯誤していかねばならないと思う。
また、「自尊感情」を育てることは、今、自分が接している子どもたちにとって、とても大事なことだと思っ
た。問題行動ばかりに目が行きがちになってしまうことも多いが、「褒めるポイント」をすかさず褒められ
る教師でありたい。

「どの子も伸ばせる授業」これはどの先生にも共通している難しい課題です。そのアプローチの1つとしては
「ジャンプの課題」、ネットの検索でヒットします。大人教のHPも要チェックです。